3-289-639-**01**(2)

取扱説明書

HT-CT100

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 **電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。**

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

x.v.Color

©2008 Sony Corporation

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

4～6ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。7ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら

1. **電源を切る**
2. **電源プラグをコンセントから抜く**
3. **お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

指のケガに注意

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

接触禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

指示

プラグをコンセントから抜く

目次

接続と準備

再生

サラウンド効果

“ブラビアリンク”機能

詳細な設定

その他

⚠警告

下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものを載せたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

➡ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光の当たる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。

内部に水や異物が入らないようにする

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。本機を水滴のかかる場所に置かないでください。また、本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。

➡ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

➡ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。

雷が鳴りだしたら、本機や電源プラグに触れない

感電の原因となります。

本機を日本国外で使わない

交流 100V の電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災や感電の原因となります。

⚠注意

下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

上に乗ったり、座ったりしない

落ちてけがの原因となることがあります。また、本機を傷める原因となります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。

大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

➡ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

異常が起きた場合にプラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるように、電源プラグは容易に手の届くコンセントにつないでください。通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。

コード類は正しく配置する

電源コードや AV ケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。

移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による**大けが**や**失明**を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることもあります。

必ず次の処理をする

指示

- ➡ 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- ➡ 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

⚠警告

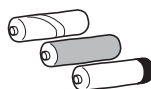
電池は乳幼児の手の届かない所に置く

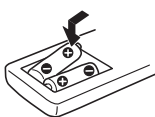
- ➡ 電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。
- ➡ 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない

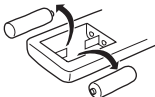
破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

＋と－の向きを正しく入れる

＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

- ➡ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な所。
- 毛足の長いじゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床に本機を置くと、床に変色、染みなどが残る場合があります。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。（チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）
- 電子レンジや大きなスピーカーなど、強力な磁気を発するものの近く。

設置時のご注意

本機は、ハイパワーアンプを搭載しています。そのため、本機底面や背面の通風孔をふさぐと、内部の温度が上昇し、故障の原因となることがあります。本機の通風孔を絶対にふさがないでください。

音量を調整するときは

ディスクはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調整すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。
演奏を始める前には、音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

本機のお手入れのしかた

キャビネットの汚れは、柔らかい布で拭いてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

テレビ画面に色むらが起きたら

本機のスピーカーによりテレビ画面に色むらが起きた場合は、テレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。それでも色むらが残るときは、スピーカーをさらにテレビから離してください。

本機はドルビー ＊1デジタルデコーダーおよびドルビープロロジック（II）アダプティブマトリックスサラウンドデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS＊2デコーダーを搭載しています。

＊1 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、“AAC”ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
以下が米国AACパテントナンバーです。
Pat. 5,848,391; 5,291,557; 5,451,954; 5,400,433; 5,222,189; 5,357,594; 5,752,225; 5,394,473; 5,583,962; 5,274,740; 5,633,981; 5,297,236; 4,914,701; 5,235,671; 07/640,550; 5,579,430; 08/678,666; 98/03037; 97/02875; 97/02874; 98/03036; 5,227,788; 5,285,498; 5,481,614; 5,592,584; 5,781,888; 08/039,478; 08/211,547; 5,703,999; 08/557,046; 08/894,844

＊2 米国パテントナンバー：5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,487,535 の実施権、及び米国、世界各国で取得済み、または出願中のその他の特許に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital SurroundはDTS, Inc.の登録商標です。DTSロゴ及び記号はDTS, Inc.の商標です。© 1996-2007 DTS, Inc. 無断複写・転載を禁じます。

次のページへつづく

本機は、High-Definition Multimedia Interface（HDMI™）技術を搭載しています。

HDMI、HDMIロゴ、及びHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または、登録商標です。

“ブラビアリンク”および“BRAVIA Link”ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

付属品を確かめる

本機には以下の付属品が同梱されています。

光デジタルコード（2.5 m）（1）

リモコン（RM-AAU040）（1）

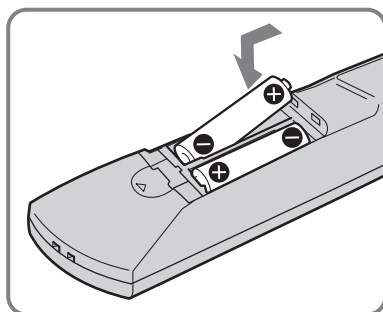
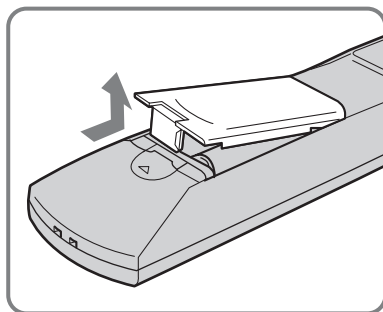
単3乾電池（2）

取扱説明書（本書）（1）

保証書（1）

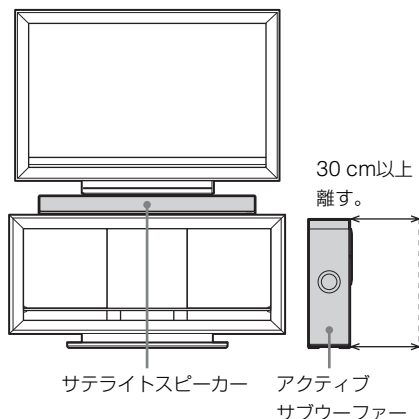
ソニーご相談窓口のご案内（1）

リモコンに電池を入れる

付属のリモコンを使って、本機を操作することができます。＋と－の向きを合わせて、単3乾電池（付属）2個を入れてください。

ご注意

- 高温、多湿の場所を避けて保管してください。
- 新しい乾電池と使った乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池を交換するときは、異物が入らないようにご注意ください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。
- 長い間リモコンを使わないときは、液漏れや破裂を避けるために乾電池を取り出してください。

本機を設置する

下図のようにアクティブサブウーファーとサテライトスピーカーを設置してください。
アクティブサブウーファーは、右側に30 cm以上スペースを空けて設置してください。

ご注意
- アクティブサブウーファーの底面や背面にものを置いて、通風孔をふさがないでください。

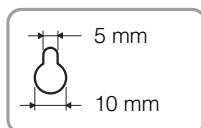
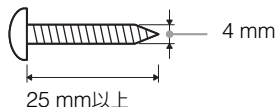
サテライトスピーカーをテレビスタンドに取り付けるには

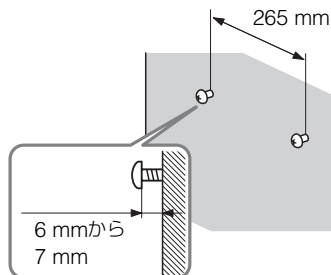
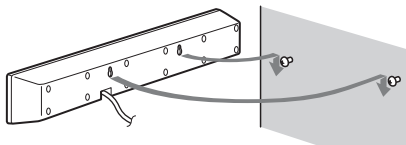
サテライトスピーカーは、以下のテレビスタンド（別売）に取り付けることができます。
- SU-FL350M
- SU-FL350L

スピーカーフック（テレビスタンドに付属）を使って、サテライトスピーカーをテレビスタンドに取り付けてください。その際は、テレビスタンドの取扱説明書に記載されている、センタースピーカー（DAV-DZ220）の取り付け方と同じ手順で取り付けてください。詳しくは、テレビスタンドの取扱説明書をご覧ください。

サテライトスピーカーを壁に取り付けるには

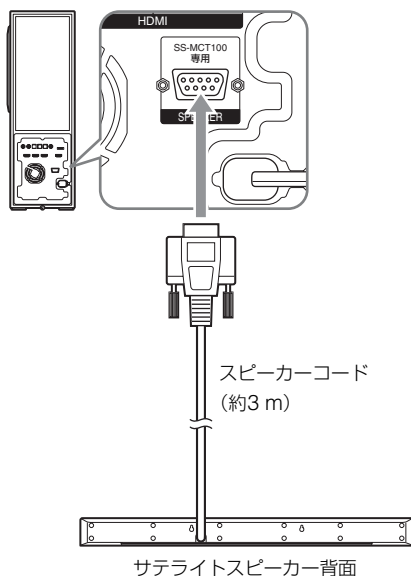
下記の手順でサテライトスピーカーを壁に取り付けることができます。

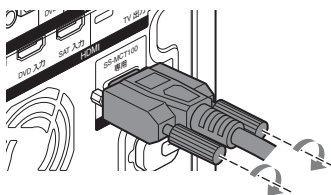
1 サテライトスピーカー背面の穴に合う市販のネジを用意する。

サテライトスピーカー背面の穴

2 壁にネジをとめる。
ネジが壁から6 mmから7 mm突き出すようにとめてください。

3 サテライトスピーカー背面の穴をネジにかける。
サテライトスピーカー背面の穴とネジの位置を合わせてから、2箇所同時に取り付けてください。

ご注意

- 壁の材質や強度に合わせたネジを使ってください。壁の材質によっては破損する恐れがあります。ネジは柱部分にしっかりと固定してください。サテライトスピーカーは補強された壁に水平に取り付けてください。
- 販売店や工事店に依頼して、安全性に充分考慮して確実な取り付けを行ってください。
- 取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、当社は一切責任を負いません。

アクティブサブウーファーとサテライトスピーカーをつなぐ

下図のようにアクティブサブウーファーとサテライトスピーカーをつないでください。

スピーカーコードをアクティブサブウーファーにつなぐ。

スピーカーコードのコネクターを差し込んでから、2つのネジを締めて固定します。

ご注意

- アクティブサブウーファーのスピーカー端子には、本機のサテライトスピーカー以外は絶対に接続しないでください。また、サテライトスピーカーを、本機のアクティブサブウーファー以外の機器に接続しないでください。
  本機以外の組み合わせでの接続は、故障や不具合の原因となります。

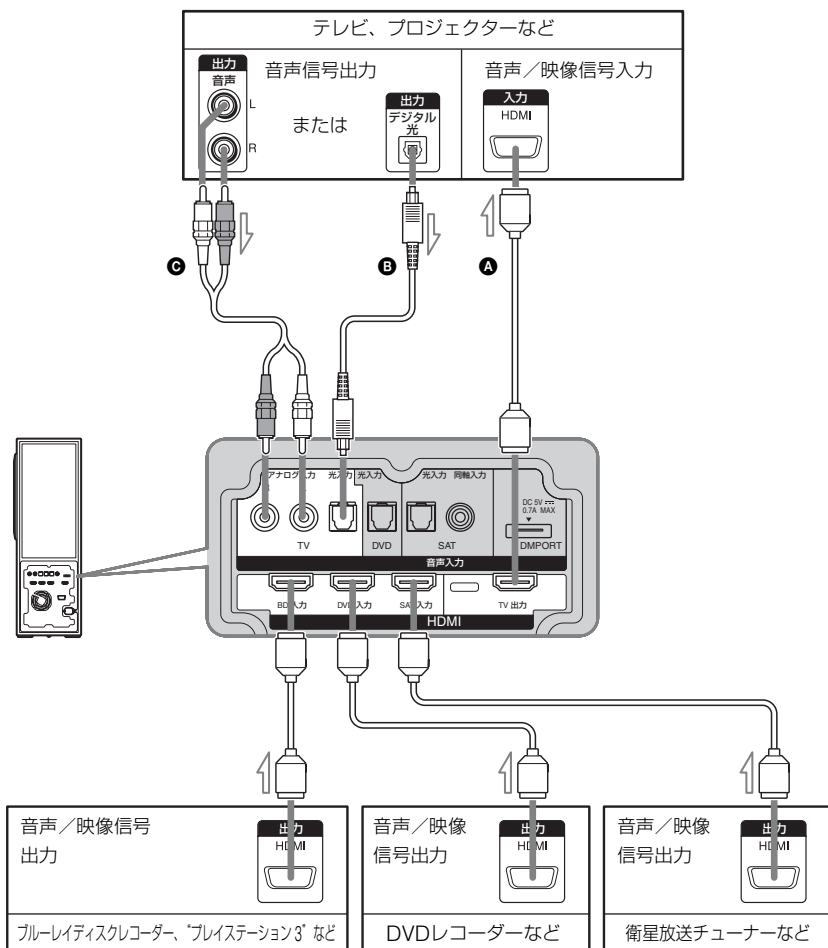
HDMI端子がある機器をつなぐ

HDMIケーブルを使って、他の機器とつなぐことをおすすめします。

HDMIを使えば、簡単に高音質、高画質を楽しむことができます。

テレビの音声を本機で聞くためには、テレビの音声出力と本機の音声入力を、光デジタルコードまたはアナログ音声コードでつなぐ必要があります。

HDMI接続をしたときに便利なHDMI機器制御については、「“ブラビアリンク”機能」（24ページ）をご覧ください。

すべての機器をつないでから、電源コードをつないでください。

A HDMIケーブル（別売）

B 光デジタルコード（付属）

C アナログ音声コード（別売）

ご注意

- HDMIに対応していない機器をお使いの場合は、14ページをご覧ください。
- 他の機器をHDMI端子、同軸入力端子、光入力端子に同時につないだ場合、HDMI端子からの信号が優先されます。
- 本機とテレビを光入力端子とアナログ（音声）入力端子に同時につないだ場合は、光入力端子からの音声信号が優先されます。

HDMI端子の接続について

- 高画質をお楽しみいただくためには、HDMIロゴがついたコードが必要です。ソニー製のHDMIケーブルを推奨します。
- HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音が出ないときは、つないだ機器側の設定をご確認ください。
- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、つないだ機器により制限されることがあります。
- つないだ機器からの音声出力信号のチャンネル数やサンプリング周波数が切り換えられた場合、音声が途切れることがあります。
- つないだ機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していないために、本機のHDMI TV出力端子の映像や音声が乱れたり再生できない場合があります。このような場合は、つないだ機器の仕様をご確認ください。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。
- 本機での入力の選択にかかわらず、HDMI TV出力端子からは前回選択されたHDMI入力（BD、DVDまたはSAT）の映像が出力されます。

HDMI端子がない機器をつなぐ

DVDレコーダー、衛星放送チューナー、“プレイステーション 2”など、HDMI端子のない機器をつなぐ場合、光入力端子または同軸入力端子で本機とつないでください。
衛星放送チューナーなどに光出力端子がない場合は、同軸入力端子を使って本機とつないでください。すべてのコードをつなぐ必要はありません。お使いの機器に合ったコードをつないでください。
すべての機器をつないでから、電源コードをつないでください。

＊“プレイステーション 2”は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの商標です。

- Ⓐ 光デジタルコード（別売）
- Ⓑ 光デジタルコード（付属）
- Ⓒ アナログ音声コード（別売）
- Ⓓ 同軸デジタルコード（別売）

ご注意

- 本機とテレビを光入力端子とアナログ（音声）入力端子に同時につないだ場合は、光入力端子からの音声信号が優先されます。

HDMI機器制御機能をオン（入）にした状態で、HDMI端子がない接続機器の音声を聞くには

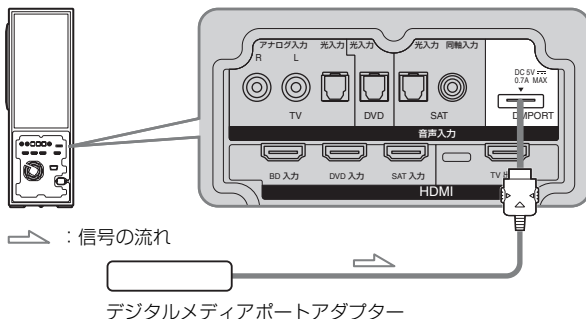
テレビ以外で、同軸入力端子や光入力端子を使ってつないでいる機器がある場合、本機のアンプメニューで、その機器のHDMI機器制御機能をオフ（切）にしてください。詳しくは、「HDMI端子のない機器のHDMI機器制御機能をオフ（切）にする」（26ページ）をご覧ください。

つないだ機器の音声出力を設定する

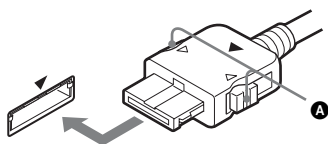
つないだ機器の音声出力設定によっては、2チャンネルの音声フォーマットとしてのみ、音声が出力されることがあります。この場合、マルチチャンネルの音声フォーマット（PCM、DTS、Dolby Digital）で音声を出力するように、つないだ機器を設定してください。音声出力の設定について詳しくは、つないだ機器の取扱説明書をご覧ください。

デジタルメディアポートアダプターをつなぐ

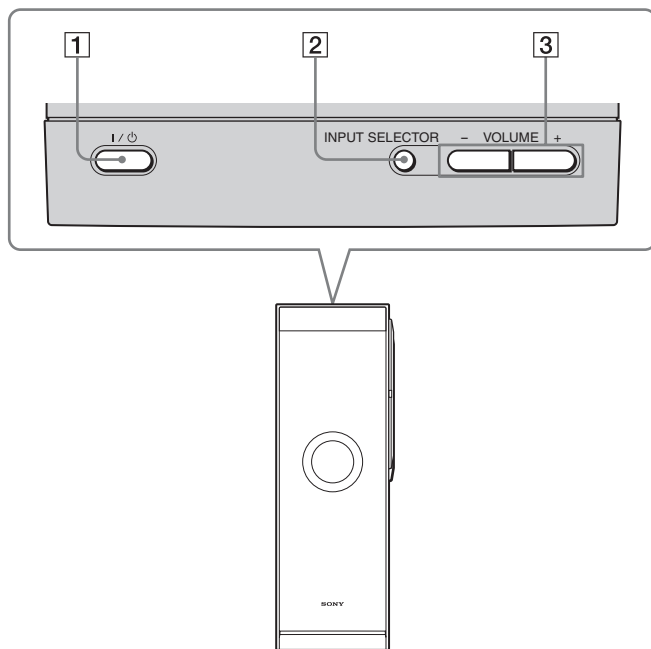
デジタルメディアポート端子（DMPORT端子）につないだ機器の音声を本機で楽しむことができます。

すべての機器をつないでから、電源コードをつないでください。

デジタルメディアポートアダプター

ご注意

- 本機の電源が入っているときは、デジタルメディアポートアダプターを抜き差ししないでください。
- デジタルメディアポートアダプターを差し込むときは、コネクターとデジタルメディアポート端子（DMPORT端子）の矢印が向かい合っていることを確認してください。デジタルメディアポートアダプターを取りはずすときは、Ⓐを押しながらコネクターを抜いてください。

各部の名前と働き

詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。

本機天面（アクティブサブウーファー）

1 **I/⏻（電源）ボタン**

本機の電源を入／切します。

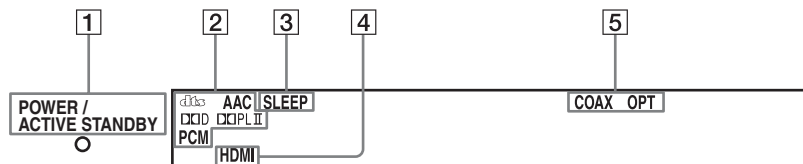
2 **INPUT SELECTOR（入力切換）ボタン**

再生する入力ソースを選びます。

3 **VOLUME（音量）+／−ボタン**

本機の音量を調節します。

次のページへつづく

本機の表示窓（アクティブサブウーファー）

1 POWER / ACTIVE STANDBYランプ

以下のように点灯します。
緑：電源が入っているとき。
オレンジ：電源が切れており、HDMI機器制御機能がオン（入）のとき。
消灯：電源が切れており、HDMI機器制御機能がオフ（切）のとき。

2 **入力した音声信号にあわせて点灯します。**

3 SLEEP（40）

スリープタイマーを設定したときに点滅します。

4 HDMI（12、42）

HDMI対応機器を使っているときに点灯します。

5 COAX/OPT

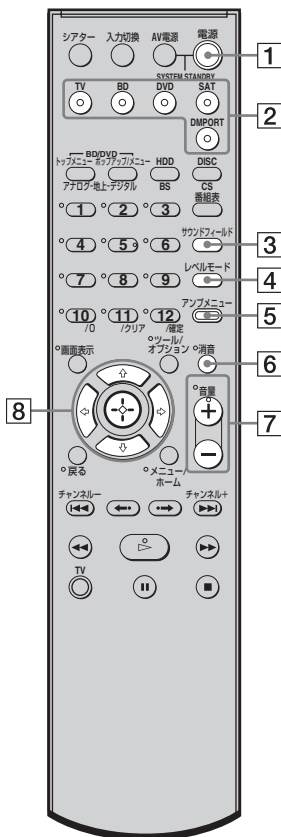
COAX（同軸入力）、OPT（光入力）のうち、現在使われている音声入力が点灯します。

リモコン

付属のリモコンを使って、本機を操作することができます。つないだ機器の操作については、31ページをご覧ください。

ご注意

- リモコンは、サテライトスピーカーのリモコン受光部（🅁）に向けて操作してください。

＊ 数字ボタンの5、および▷ボタン、音量 ＋ボタンには、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

1 電源ボタン

本機の電源を入／切します。

2 入力ボタン

再生したい機器をつないだ入力を選ぶと、本機の入力が切り替わり、本機のリモコンでつないだ機器が操作できるようになります（ソニー製の機器のみ）。つないだ機器に合わせて設定を変更するには、「リモコンの入力ボタンに登録された機器を変更する」（33ページ）をご覧ください。

3 サウンドフィールドボタン

お好みのサウンドフィールドを選びます（23ページ）。

4 レベルモードボタン

センタースピーカーとサブウーファーのレベルを調節します（35ページ）。

5 アンプメニューボタン

本機のメニューを表示します（36ページ）。

6 消音ボタン

消音します。

7 音量＋／－

音量を調節します。

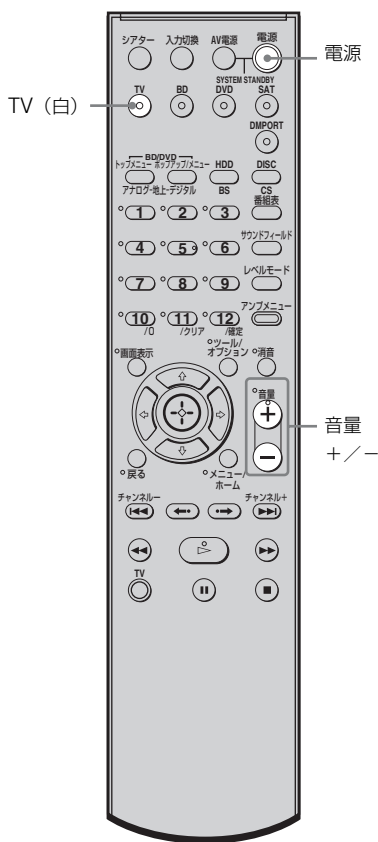
8 ←、↑、↓、→、⊕

←、↑、↓、→を押して設定を選び、⊕で決定します。

テレビの音声を聞く

1 テレビの電源を入れて、番組を選ぶ。

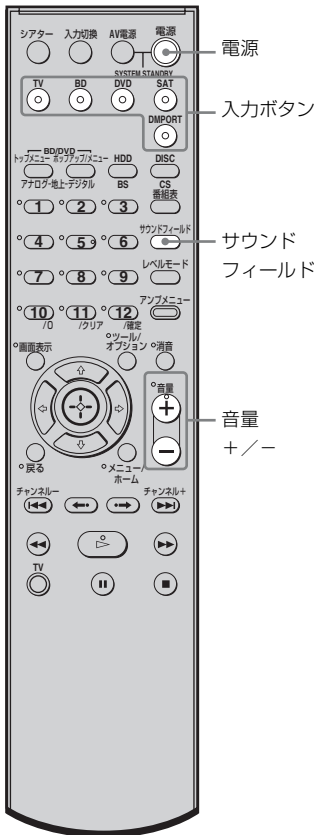
詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

2 本機の電源を入れる。

3 リモコンのTV（白）ボタンを押す。

4 音量＋／－ボタンで音量を調節する。

ちょっと一言

- ソニー製のテレビをお使いの場合、TV（白）ボタンを押すと、本機の入力がテレビに切り替わり、テレビの入力が、テレビ番組に自動的に切り替わります。設定を変更するには、「リモコンの入力ボタンに登録された機器を変更する」（33ページ）をご覧ください。
- テレビのスピーカーからも音が出ていることがあります。その場合は、テレビの音量を最小にしてください。

つないだ機器の音声を聞く

衛星放送チューナーの音声を楽しむ

1 テレビの電源を入れる。
詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

2 衛星放送チューナーと本機の電源を入れる。

3 リモコンのSATボタンを押す。

4 テレビの入力を切り換える。
詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

5 音量＋／－ボタンで音量を調節する。

ちょっと一言

- テレビのスピーカーからも音が出ていることがあります。その場合は、テレビの音量を最小にしてください。

ブルーレイディスク／DVDレコーダーまたは "プレイステーション 3" でディスクを再生する

1 テレビの電源を入れる。
詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

2 ブルーレイディスク／DVDレコーダーまたは "プレイステーション 3" と本機の電源を入れる。

3 リモコンのBDまたはDVDボタンを押す。

4 テレビの入力を切り換える。
詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

5 ディスクを再生する。

次のページへつづく

ちょっと一言

- Dolby True HD、Dolby Digital Plus、DTS-HDに対応した接続機器で、これらの音源を再生した場合、本機ではドルビーデジタルまたはDTSとして処理されます。これらの高品質サウンドフォーマットを再生するときは、可能であれば、接続機器の出力をマルチチャンネルPCMに設定してください。

デジタルメディアポート端子（DMPORT端子）につないだ機器を再生する

1 リモコンのDMPORTボタンを押す。

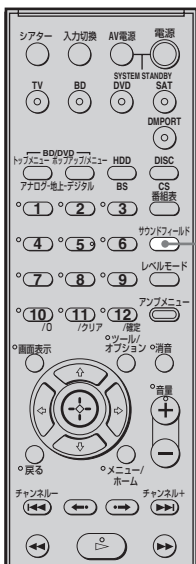
2 つないだ機器を再生する。

ちょっと一言

- サウンドフィールドで「P.AUDIO」を選ぶと、ATRACやMP3、AACなど、圧縮された音声を、より良い音で再生することができます。
  サウンドフィールドボタンを繰り返し押して、「P. AUDIO」を表示窓に表示させてください。
  その他のサウンドフィールドについては、「サラウンド効果を楽しむ」（23ページ）をご覧ください。

サラウンド効果を楽しむ

サウンドフィールドを選ぶ

本機ではマルチチャンネルサラウンド効果を楽しむことができます。お好みのサウンドフィールドを選んでください。

サウンドフィールドボタンを押す。

本機の表示窓に現在のサウンドフィールドが表示されます。

サウンドフィールドボタンを押すたびに、サウンドフィールドの表示は次のように切り替わります。

STANDARD → MOVIE → MUSIC → SPORTS → GAME → P. AUDIO*

サウンドフィールドボタンを繰り返し押して、お好みのサウンドフィールドを表示させます。

PCM HDMI STANDARD

サウンドフィールドの種類

サウンドフィールド	効果
STANDARD	標準の音声が楽しめます。
MOVIE	セリフが聞き取りやすく、迫力のある音と臨場感が楽しめます。
MUSIC	最適なサラウンド効果で音楽が楽しめます。
SPORTS	解説が聞き取りやすく、歓声などがサラウンドで聞こえ、臨場感が楽しめます。
GAME	ゲームに最適な迫力あるサウンドと臨場感が楽しめます。
P. AUDIO*	携帯用ミュージックプレーヤーで再生されるMP3音声トラックや、その他の圧縮された音声を改善します。

*「P. AUDIO」は、入力がDMPORTのときのみ表示されます。

ちょっと一言

- 停電になったり電源コードを抜いても、サウンドフィールドなど、本機に記憶された情報は保持されます。
- マルチチャンネルの音声はどのサウンドフィールドでもサラウンド処理されます。また、「MOVIE」および「SPORTS」ではすべての音声でサラウンド処理されます。

“ブラビアリンク”とは？

HDMI機器制御機能（“ブラビアリンク”）に対応しているソニー製品をHDMIケーブル（別売）でつなぐと、下記のように操作を簡単に行うことができます。

- ワンタッチプレイ：ブルーレイディスクレコーダーなどの機器を再生すると、本機とテレビの電源が自動的に入り、HDMI入力に切り替わります。
- システムオーディオコントロール：テレビの視聴中、音声の出力をテレビのスピーカーで行うか、本機のスピーカーで行うかを選ぶことができます。
- 電源オフ連動：テレビの電源を切ると、本機とつないだ機器の電源も同時に切ることができます。
- オートジャンルセレクター：デジタル放送の番組情報（EPG情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り替わります。

“ブラビアリンク”は、HDMI機器制御を搭載したソニーのテレビやブルーレイディスクレコーダー、AVアンプなどに対応しています。

HDMI機器制御は、CEC（Consumer Electronics Control）で使用されている、HDMI（High-Definition Multimedia Interface）のための相互制御機能の規格です。

次の場合、HDMI機器制御機能は働きません。

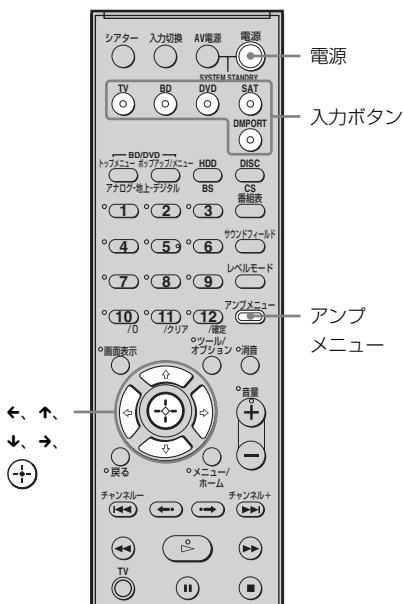
- HDMI機器制御機能（“ブラビアリンク”）に対応していない機器をつないだとき
- 本機と各機器をHDMIケーブル以外でつないだとき
- ソニー製品以外のHDMI機器制御対応機器に接続したとき

本機には、“ブラビアリンク”に対応した機器をつなぐことをおすすめします。

ご注意

- つないだ機器の設定によっては、HDMI機器制御機能が働かないことがあります。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

“ブラビアリンク”を使う準備をする

“ブラビアリンク”を使うには、本機とつないだ機器のHDMI機器制御機能をオン（入）に設定してください。HDMI機器制御機能に対応しているソニー製テレビをお使いの場合、テレビのHDMI機器制御機能の設定を行うと、本機やつないだ機器のHDMI機器制御機能も連動して設定されます。

1 本機とテレビ、再生機器がHDMIケーブル（別売）でつながれていることを確認する。

ご注意

- テレビや再生機器はHDMI機器制御機能（“ブラビアリンク”）に対応している必要があります。

2 本機とテレビ、再生機器の電源を入れる。

3 再生機器の映像がテレビに映るように、テレビのHDMI入力と本機の入力（BD、DVDまたはSAT）を切り換える。

4 テレビのHDMI機器制御機能をオン（入）に設定する。

本機と再生機器のHDMI機器制御機能が同時にオン（入）に設定されます。設定中は、表示窓に「SCANNING」が表示され、設定が完了すると「COMPLETE」が表示されます。

「SCANNING」、「COMPLETE」が表示されないときは

本機と再生機器のHDMI機器制御を個別にオン（入）に設定してください。

1. アンプメニューボタンを押す。
2. ↑/↓を繰り返し押して、「SET HDMI」を選び、⊕または→を押す。
3. ↑/↓を繰り返し押して、「CTRL: HDMI」を選び、⊕または→を押す。
4. ↑/↓を押して、「ON」を選ぶ。
5. アンプメニューボタンを押す。
   アンプメニューを終了します。HDMI機器制御機能がオン（入）になります。
6. 再生機器のHDMI機器制御をオン（入）にする。
   再生機器の設定について詳しくは、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
7. HDMI機器制御機能を使いたい再生機器の入力（BD、DVDまたはSAT）を本機で選び、手順6を繰り返す。

本機に再生機器を追加したり、つなぎ直すときは

「“ブラビアリンク”を使う準備をする」や「「SCANNING」、「COMPLETE」が表示されないときは」の手順をもう一度行ってください。

次のページへつづく

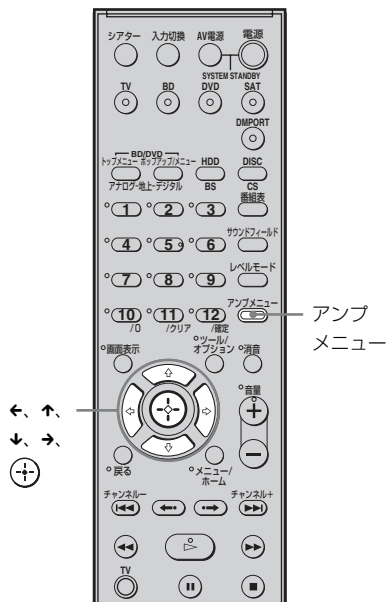
ご注意

- 本機のHDMI機器制御機能の設定中は、システムオーディオコントロール機能は働きません。
- テレビの「HDMI機器制御」によって、再生機器のHDMI機器制御を同時に設定できない場合は、再生機器のメニューからHDMI機器制御機能を設定してください。
- テレビや再生機器の設定について詳しくは、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

- 本機のHDMI機器制御機能は、お買い上げ時はオフ（切）に設定されています。

HDMI端子のない機器のHDMI機器制御機能をオフ（切）にする

HDMI機器制御機能をオン（入）にした状態で、HDMI端子のない機器の音声を聞くには、本機のアンプメニューで、音声を聞きたい機器のHDMI機器制御機能をオフ（切）に設定してください。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「SET HDMI」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して、HDMI機器制御機能をオフ（切）にしたい機器（DVD CTRL、SAT CTRLまたはDMPORT. CTRL）を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、「OFF」を選ぶ。

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

ご注意

- HDMI端子のない機器のHDMI機器制御機能をオフ（切）にしないと、接続機器の音声は本機から出力されません。
- HDMI機器制御機能を個別に「OFF」にした機器を選んでいるときは、他機器のワンタッチプレイやシステムオーディオコントロール、音量制限機能など、本機のHDMI機器制御機能は働きません。

ちょっと一言

- デジタルメディアポートアダプターの映像出力とテレビの映像入力をつないでいるときは、「DMPORT. CTRL」を「OFF」にしてください。
  映像出力端子のないデジタルメディアポートアダプターをつないでいるときは、「DMPORT. CTRL」を「ON」にしてください。

ブルーレイディスクを楽しむ

（ワンタッチプレイ）

つないだ機器を再生する。

本機とテレビの電源が自動的に入り、HDMI入力に切り替わります。

ご注意

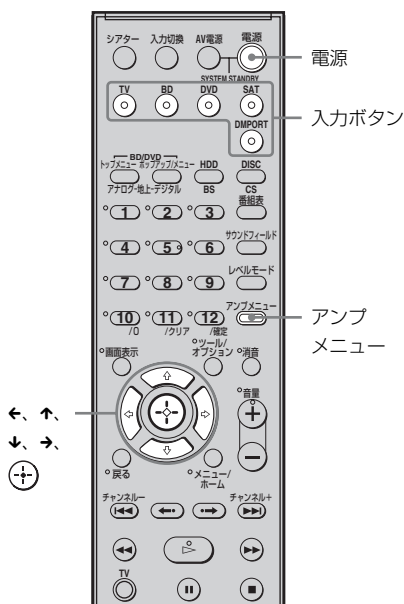
- テレビによっては、コンテンツの開始部分が出力されないことがあります。

ちょっと一言

- 本機の電源を切っても、本機につながれたブルーレイディスクのコンテンツを楽しむことができます。このときは、POWER / ACTIVE STANDBYランプがオレンジに点灯します。

テレビの音声を本機のスピーカーで楽しむ

（システムオーディオコントロール）

簡単な操作で、テレビの音声を本機のスピーカーから聞くことができます。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

本機の電源を入れる。

本機のスピーカーから音声が出ます。本機の電源を切ると、自動的にテレビのスピーカーから音声が出ます。

ご注意

- 本機の電源を入れてから音声が出力されるまでに、時間がかかることがあります。
- システムオーディオコントロールに対応していないテレビをつないだときは、システムオーディオコントロールは働きません。

ちょっと一言

- テレビのリモコンを使って、本機の音量を調節したり、消音することができます。

デジタル放送のジャンルに応じて、サラウンド効果を自動的に切り換える

（オートジャンルセレクター）

視聴中のデジタル放送の番組情報（EPG情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り換えることができます（オートジャンルセレクター対応のテレビをお使いの場合のみ）。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「SET HDMI」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して、「SOUND.FIELD」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、設定を選ぶ。

- 「AUTO」：デジタル放送のテレビ番組のジャンルに応じてサウンドフィールドが自動的に切り替わります。
- 「MANUAL」：サウンドフィールドボタンで選んだサウンドフィールドで、音声を出力します。

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

番組情報対応表

番組情報（EPG情報）	オートジャンルセレクターで切り替わるサウンドフィールド
ニュース／報道	STANDARD
スポーツ	SPORTS
情報／ワイドショー	STANDARD
ドラマ	STANDARD
音楽	MUSIC
バラエティ	STANDARD
映画	MOVIE
アニメ／特撮	STANDARD
ドキュメンタリー	STANDARD
劇場／公演	MUSIC
趣味／教育	STANDARD
福祉	STANDARD
その他	STANDARD
スポーツ（CS）	SPORTS
洋画（CS）	MOVIE
邦画（CS）	MOVIE
情報なし	STANDARD

ご注意

- 番組情報（EPG情報）に応じてサウンドフィールドが切り替わるとき、音が途切れることがあります。

音量制限機能を使う

システムオーディオコントロールが作動中に、音声出力がテレビから本機に切り替わると、本機の音量によっては大きな音が出ることがあります。こうしたことを防ぐために、本機に切り換えた後の音量を制限することができます。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「SET HDMI」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して、「VOL LIMIT」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、最大音量レベルを設定する。

最大音量レベルは次のように変わります。

MAX ↔ 49 ↔ 48 ..... 2 ↔ 1 ↔ MIN

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

ご注意

- この機能は、音声出力が本機からテレビに切り替わるときには働きません。

ちょっと一言

- 設定値は、通常お聞きの音量より少し小さくすることをおすすめします。
- 設定値の大きさにかかわらず、本機とリモコンの音量＋／－ボタンを使って音量を調整できます。
- この機能を使用しない場合は、「MAX」を選択してください。

次のページへつづく

リモコンの入力ボタンの働き

HDMI機器制御機能がオン（入）のとき、入力ボタン（TV（白）、BD、DVD、SAT）は次のように働きます。

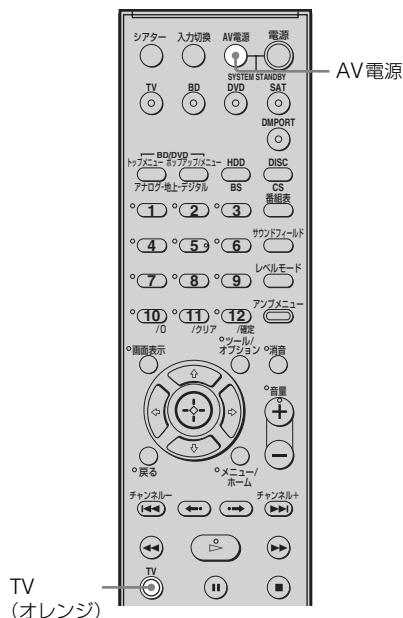
- BD、DVD、SATボタン：押すだけで、テレビの入力も自動的に切り替わり、選んだ再生機器の映像をテレビで見ることができます。
- TV（白）ボタン：押すだけで、テレビの入力が自動的に切り替わります。ソニー製のテレビをつないでいる場合、簡単にテレビを見ることができます。

ちょっと一言

- 入力ボタンを押して、つないだソニー製の機器を操作することができます。詳しくは「つないだソニー製機器をリモコンで操作する」（31ページ）をご覧ください。

テレビと本機、再生機器の電源を切る

（電源オフ連動）

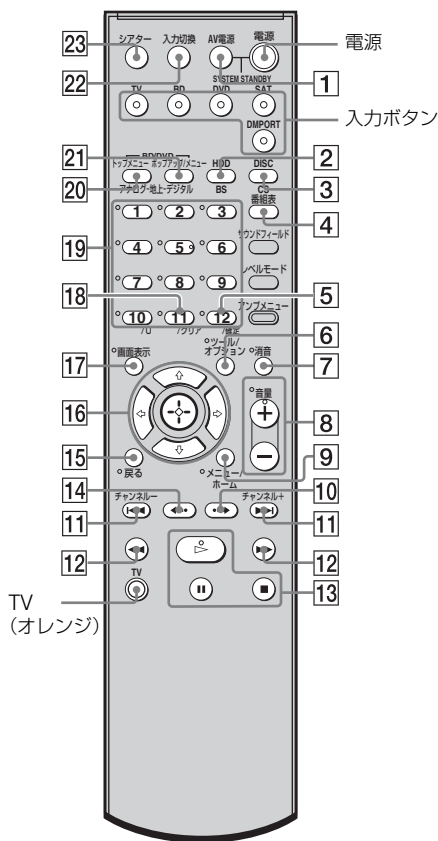
テレビのリモコンでテレビの電源を切ると、本機とつないだ再生機器の電源も自動的に切ることができます。また、本機のリモコンでテレビの電源を切ったときも、本機とつないだ再生機器の電源を自動的に切ることができます。

TV（オレンジ）ボタンを押しながら、AV電源ボタンを押す。

テレビと本機、再生機器の電源が切れます。

ご注意

- 状態によっては、つないだ機器の電源を切れない場合があります。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

つないだソニー製機器をリモコンで操作する

付属のリモコンを使って、つないだソニー製の機器を操作することができます。
つないだ機器によっては、操作できないことがあります。その場合は、つないだ機器のリモコンで操作してください。

＊ 数字ボタンの5、および ▷ ボタン、音量 ＋ボタンには、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

つないだ機器を操作するには

1 操作したい機器を登録した入力ボタン（TV、BD、DVD、SAT）を押す。

選んだ入力ボタンに登録された機器が操作できるようになります。

2 以下の表を参照して、ボタンを押す。

共通する操作

ボタン	機能
1 AV電源	本機のリモコンで操作ができるソニー製のテレビまたはオーディオ、ビデオの電源を入／切します。 電源ボタンと 1 AV電源ボタンを同時に押して、本機と他の機器の電源を同時に切ります（システムスタンバイ）。
5 確定	選択を確定します。
19 数字ボタン	チャンネルやトラックを数字で選びます。

テレビを操作するには

オレンジ色の印刷やオレンジ色の点がついたボタンは、TV（オレンジ）を押したまま、それぞれのボタンを押して操作してください。

ボタン	機能
2 BS	BSデジタル放送に切り換えます。
3 CS	110度CSデジタル放送に切り換えます（ボタンを押すたびにCS1／CS2に切り替わります）。
4 番組表	地上デジタル放送で番組表を表示します。
6 ツール／オプション	そのときできる便利な機能を一覧表示します。
7 消音	消音します。

次のページへつづく

ボタン	機能
8 音量＋／－	音量を調節します。
9 メニュー／ホーム	基本の操作を一覧表示します。
11 チャンネル＋／－	チャンネルを切り換えます。
15 戻る	ひとつ前の表示画面に戻ります。
16 ↑、↓、←、→、⊕	矢印ボタンでメニュー項目を選び、⊕で確定します。
17 画面表示	テレビ画面上に情報を表示します。
19 数字ボタン	チャンネルを選びます。 12以上のチャンネル番号を入れるときは、2桁、3桁目をすばやく押します。
20 アナログ	地上アナログ放送に切り換えます。
21 デジタル	地上デジタル放送に切り換えます。
22 入力切換	入力を切り換えます。
23 シアター	シアターボタンに対応したソニー製テレビにつないでいる場合、映画に適した設定を自動的に行います。 また、本機とテレビをHDMI接続して、HDMI機器制御機能をオン（入）にした場合、自動的に本機の音声出力に切り換えます。

DVDプレーヤーを操作するには

ボタン	機能
9 メニュー／ホーム	基本の操作を一覧表示します。
10 •➡	録画中の番組を見ているときにジャンプで先に送ります。
11 ⏮	チャプターをスキップします。
⏭	次に再生可能なチャプターにジャンプします。
12 ◀◀/▶▶	再生中にディスクの早戻し／早送りをします。

ボタン	機能
13 ▷（再生）／❚❚（一時停止、もう一度押すと通常再生に戻る）／■（停止）	再生を開始／一時停止／停止します。
14 ⬅•	現在、または録画中の番組を見ている間にジャンプで前に戻ります。
16 ↑、↓、←、→、⊕	矢印ボタンでメニュー項目を選び、⊕で確定します。
20 BD／DVDトップメニュー	トップメニュー／ディスクメニューを表示します。
21 BD／DVDポップアップ／メニュー	

ブルーレイディスク／DVDレコーダー／ハードディスクレコーダーを操作するには

ボタン	機能
2 HDD	HDDを選びます。
3 DISC	ディスク（ブルーレイディスク／DVD）を選びます。
9 メニュー／ホーム	基本の操作を一覧表示します。
10 •➡	ジャンプで先に送ります。
11 ⏮/⏭	チャプターをスキップします。
12 ◀◀/▶▶	再生中にディスクの早戻し／早送りをします。
13 ▷（再生）／❚❚（一時停止、もう一度押すと通常再生に戻る）／■（停止）	再生を開始／一時停止／停止します。
14 ⬅•	ジャンプで前に戻ります。
16 ↑、↓、←、→、⊕	矢印ボタンでメニュー項目を選び、⊕で確定します。
18 クリア	お使いの機器のクリアボタンによって働きが異なります。

ボタン	機能
20 BD／DVD トップメニュー	トップメニュー／ディスクメニューを表示します。
21 BD／DVD ポップアップ／メニュー	

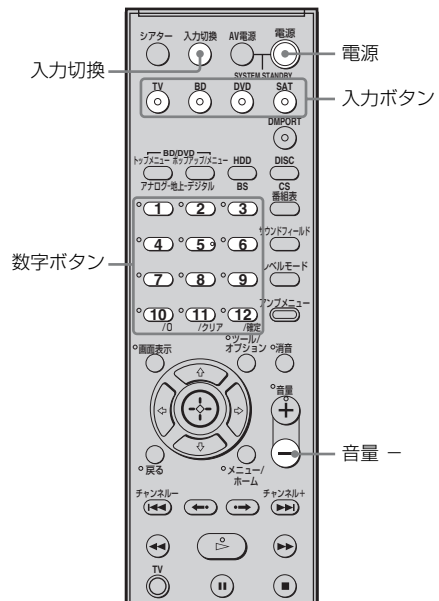
デジタルCSチューナーなどを操作するには

ボタン	機能
4 番組表	番組表を表示します。
9 メニュー／ホーム	基本の操作を一覧表示します。
16 ↑、↓、←、→、⊕	矢印ボタンでメニュー項目を選び、⊕で確定します。

ご注意

- 上記の説明は基本的な操作の一例です。つないだ機器によっては操作できないか、または表とは異なった動作をする場合があります。

リモコンの入力ボタンに登録された機器を変更する

お使いの機器に合わせて、入力ボタンの設定を変更することができます。
例：ブルーレイディスクプレーヤーをDVD端子につないだとき、DVDボタンでブルーレイディスクプレーヤーを操作できるように設定します。
リモコンのTV（白）ボタンに、テレビ以外の機器を登録することはできません。

1 設定を変更したい入力ボタンを押し続ける。

例：DVDボタンを押し続ける。

詳細な設定

次のページへつづく

2 次の表を参照して、登録したい機器の数字ボタンを押す。

例：数字ボタンの6を押す。
DVDボタンでブルーレイディスクプレーヤーを操作できるようになります。

お使いの機器をBD、DVD、SATボタンに登録するには

機器	数字ボタン
DVDプレーヤー（リモコンモード：DVD1）	1
DVDレコーダー（リモコンモード：DVD3）*1	2
CSデジタルチューナー*2	3
地上波デジタルテレビ（地デジ）専用チューナー	4
ブルーレイディスクプレーヤー（リモコンモード：BD1）	6
ブルーレイディスクレコーダー（リモコンモード：BD3）*3	7
設定しない	11

*1 お買い上げ時は、DVDボタンに登録されています。
ソニー製DVDレコーダーはDVD1またはDVD3で操作できます。詳しくは、DVDレコーダーの取扱説明書をご覧ください。
*2 お買い上げ時は、SATボタンに登録されています。
*3 お買い上げ時は、BDボタンに登録されています。
BD1およびBD3について詳しくは、ブルーレイディスクプレーヤーまたはブルーレイディスクレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

お使いの機器をTVボタン（白）に登録するには

機器	数字ボタン
テレビ*1	8
テレビ*2	9
設定しない	11

*1 お買い上げ時は、TVボタン（白）に登録されています。
TVボタン（白）を押すと、本機の入力がテレビに切り替わるとともに、テレビの入力がテレビ番組に切り替わります。
*2 TVボタン（白）を押すと、本機の入力のみ、TVに切り替わります。

リモコンに登録した設定を消去するには

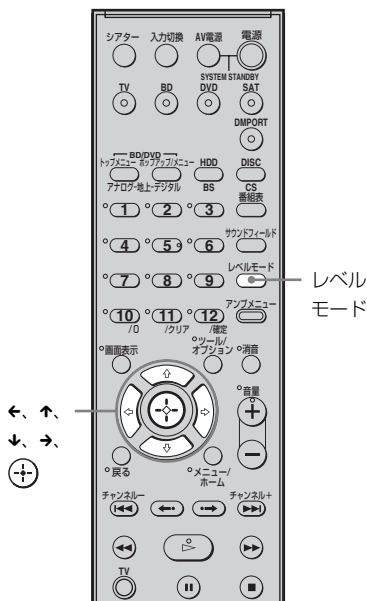
リモコンの音量－ボタン、電源ボタンを押しながら、入力切換ボタンを押す。
リモコンの設定がお買い上げ時の状態に戻ります。

スピーカーレベルを設定する

センタースピーカーとサブウーファーのレベルを設定することができます。
設定は、すべてのサウンドフィールドに適用されます。

1 DVDなどのマルチチャンネルサラウンド効果が記録されたメディアを再生する。

2 レベルモードボタンを押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して、「CNT LEVEL（センタースピーカーのレベル）」または「SW LEVEL（サブウーファーのレベル）」を選ぶ。

4 ⊕または→を押す。

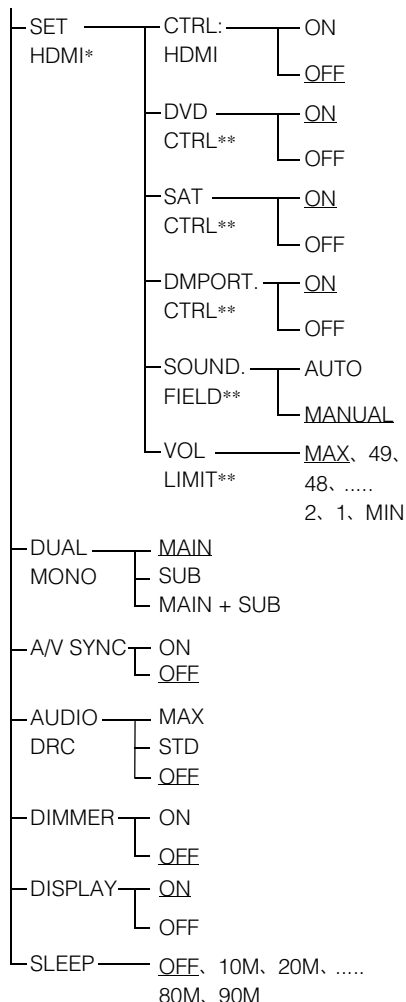
5 スピーカーの音を聞きながら、↑/↓を繰り返し押してお好みの設定を選ぶ。

お買い上げ時の設定：0（dB）
−6（dB）から+6（dB）の範囲で1（dB）単位で設定できます。

6 レベルモードボタンを押す。

アンプメニューをお好みの設定に変更する

アンプメニューを使う

リモコンのアンプメニューボタンを押すと、下記の設定ができます。
お買い上げ時の設定は下線の項目です。

* 詳しくは、「"ブラビアリンク"機能」（24ページ）をご覧ください。
**これらの設定は「CTRL: HDMI」が「ON」のときだけ表示されます。

1 アンプメニューボタンを押して、アンプメニューを表示する。

2 ←/↑/↓/→を繰り返し押して、設定したい項目を選ぶ。

3 アンプメニューボタンを押して、アンプメニューを終了する。

続いて、アンプメニューの各設定について説明します。

AAC（2ヶ国語放送）を楽しむ（DUAL MONO）

AACとは、BSデジタル放送や地上波デジタル放送で採用されている音声方式です。
AACでは5.1 chのサラウンド放送や2ヶ国語放送にも対応しています。
BSデジタル放送などのAAC音声を聞くには、テレビなどデジタルチューナー搭載機器側でも「光デジタル音声出力設定」などで設定を行う必要があります。デジタルチューナー搭載機器が、デジタル出力端子からAAC音声信号を出力するように設定してください。詳しくは、デジタルチューナー搭載機器の取扱説明書をご確認ください。
以上の準備が整った上で、次の操作を行ってください。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「DUAL MONO」を選び、⊕または→を押す。

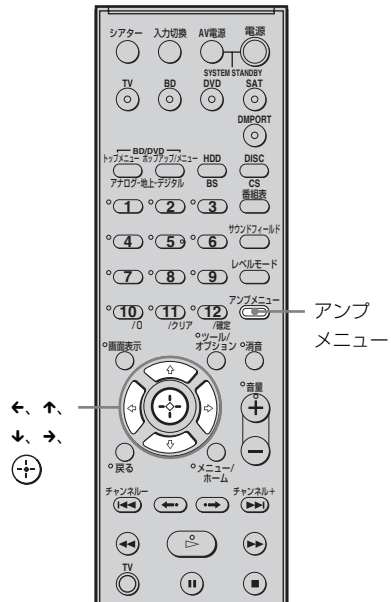
3 ↑/↓を押して、設定を選ぶ。

- MAIN（主音声）：主音声のみを再生します。
- SUB（副音声）：副音声のみを再生します。
- MAIN＋SUB（主／副）：左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声を同時に再生します。

4 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

映像の遅れに音声を合わせる（A/V SYNC）

映像が音声よりも遅れている場合、この機能で音声を遅らせることができます。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「A/V SYNC」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を押して、設定を選ぶ。

- ON：A/V SYNC機能を使って、音声と映像のずれを調節します。
- OFF：A/V SYNC機能を使いません。

4 アンプメニューボタンを押す。

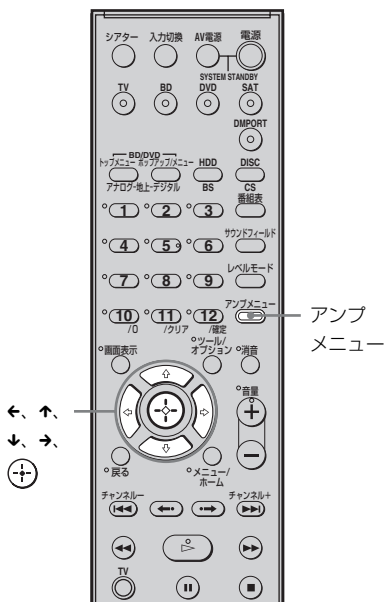
アンプメニューを終了します。

次のページへつづく

ご注意

- A/V SYNC機能を使っても、音声と映像を完全に合わせることができない場合もあります。
- A/V SYNC機能は同軸入力、光入力およびHDMI入力のDolby Digital、DTS、MPEG2-AAC、リニアPCM（2ch）に働きます。

小さい音量でドルビーデジタルサウンドを楽しむ（AUDIO DRC）

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。小さな音量で映画を楽しむときに便利です。AUDIO DRCはドルビーデジタルの音声にのみ対応しています。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「AUDIO DRC」を選び、⊕または→を押す。

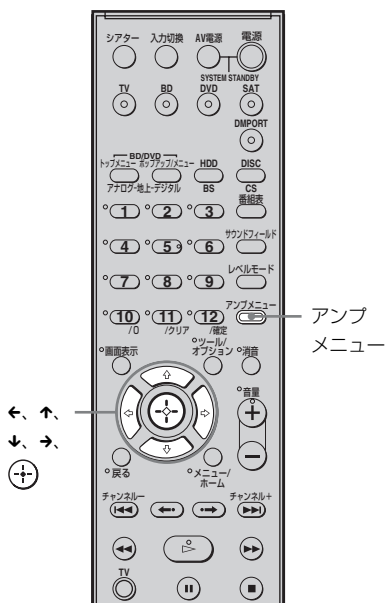
3 ↑/↓を押して、設定を選ぶ。

- MAX：信号の幅を最大限に圧縮します。
- STD：制作者が意図したようなダイナミックレンジで音声を再現します。
- OFF：信号の幅は圧縮されません。

4 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

本体表示の明るさを調節する（DIMMER）

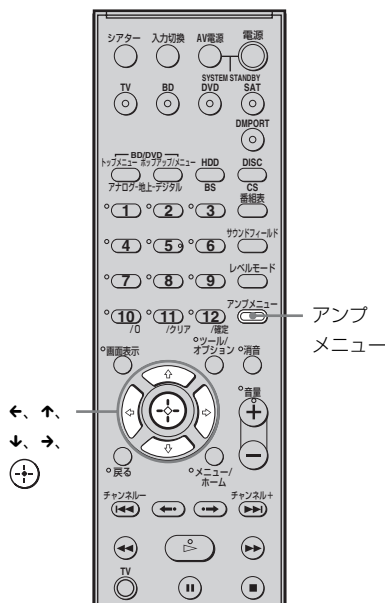
表示窓の明るさを2段階で調節することができます。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「DIMMER」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を押して、設定を選ぶ。
- ON：表示窓の明るさが暗くなります。本機の電源を切ると、表示窓は暗くなります。
- OFF：通常状態。

4 アンプメニューボタンを押す。
アンプメニューを終了します。

表示窓の設定を変える（DISPLAY）

表示窓の設定を変更することができます。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「DISPLAY」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を押して、設定を選ぶ。
- ON：常時、表示窓を点灯します。
- OFF：本機を操作したときに、一定時間、表示窓を点灯します。

ご注意
- 「DISPLAY」で「OFF」を選んでいても、消音機能が有効になっているときやプロテクト状態のときは、常時、表示窓を点灯します。

次のページへつづく

4 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

スリープタイマーを使う

音楽などを聞きながらお休みになるとき、設定した時間に本機の電源を切ることができます。時間は10分間隔で設定することができます。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「SLEEP」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を押して、設定時間を選ぶ。

設定時間は次のように切り替わります。

OFF ↔ 10M ↔ 20M
↕ ↕
90M ↔ 80M 30M

4 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

ご注意

- スリープタイマーは本機にのみ適用されます。本機につないでいるテレビや他の機器には使えません。

その他

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

全般

電源が入らない

→ 電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。

本機の表示窓に「PROTECTOR」と「PUSH POWER」が交互に表示される

I/⏻（電源）ボタンを押して電源を切り、「STANDBY」が消えたら以下の項目を確認する。

→ 本機の通風孔がふさがっていないか？
上記の項目を点検し、電源を入れる。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）に問い合わせる。

Dolby DigitalやDTSのマルチチャンネルの音声が再生されない

→ ブルーレイディスクやDVDなどを再生しているときは、Dolby DigitalやDTSフォーマットの音声を選んでいるか確認する。

→ つないだ機器のオーディオ設定（音声出力設定）を確認する。

サラウンド効果が得られない

→ 再生したい機器の入力ボタン（TV、DVD、BD、SAT、DMPORT）をもう一度押して、本機に表示される音声信号の種類を確認する。音声信号の種類が「2.0ch」や「1.0ch」と表示されたときは、ステレオまたはモノラル音声のため、サラウンド成分が含まれていません。音声信号の種類が「5.1ch」などと表示されたときは、マルチチャンネル音声ですが、番組やディスクによっては、サラウンド成分が少ない場合があります。

→ サウンドフィールドの設定と入力信号によっては、サラウンド処理が働かないことがあります（23ページ）。

スピーカーから音が出ない、または音が小さい

→ 音量＋ボタンを押し、音量を確認する。

→ 消音ボタンや音量＋ボタンを押して、消音機能を解除する。

→ サウンドフィールドボタンを押して、現在のサウンドフィールドを確認する。

→ 音源によってはスピーカーの音響効果が、はっきりと目立たない場合があります。

テレビの音声が映像より遅れる

→「A/V SYNC」が「ON」に設定されていたら、「A/V SYNC」を「OFF」に設定する。

つないだ機器

どの機器を選んでも音が出ない、または音が小さい

→ 本機とそれぞれの機器が正しくつながれているか確認する。

→ 本機とつないだ機器の電源がオンになっているか確認する。

選んだ機器から音が出ない

→ つないだ機器が、本機の音声入力端子に正しくつながれているか確認する。

→ つないだ機器と本機のコードが、端子の奥までしっかり差し込まれているか確認する。

→ 本機でつないだ機器が正しく選ばれているか確認する。

→ 音量が最大のときに、ディスクをつづき再生すると、音が出ないことがあります。このときは、音量を小さくしてから、本機の電源を切り、電源を入れてください。

次のページへつづく

音が途切れたり、ノイズが出る

→「本機で対応するデジタル入力フォーマット」を確認する（44ページ）。

テレビ画面に映像が出ない

→ 本機でテレビが正しく選ばれているか確認する。

→ テレビをビデオ入力などの該当する入力モードに設定する。

HDMI機器制御

“ブラビアリンク”を使用中、次のような問題が発生した場合は、以下の方法をお試しください。

HDMI機器制御機能が働かない

→ HDMI接続を確認する（12ページ）。

→ アンプメニューで「CTRL: HDMI」が「ON」に設定されていることを確認する。

→ つないだ機器がHDMI機器制御機能に対応していることを確認する。

→ つないだ機器のHDMI機器制御の設定を確認する。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

→ HDMI接続を変更したときや、本機の電源コードを抜き差ししたとき、また、停電があったときは、「“ブラビアリンク”を使う準備をする」（25ページ）の手順を再度行ってください。

→ HDMI機器制御機能に対応していない機器をテレビにつなぎ、その機器の入力をテレビで選んだ場合、本機が正しく動作しないことがあります。

→ アンプメニューの「DVD CTRL」、「SAT CTRL」、「DMPORT. CTRL」が「ON」になっているか確認する。「OFF」に設定した機器を選んでいる場合や、選んだ後に電源を切った場合は、HDMI機器連動機能も一時的にオフ（切）になっています。

システムオーディオコントロール機能を使っているときに、本機とテレビの両方から音が出ない

→ 本機またはテレビの音量を確認する。

→ 本機の入力が正しく選択されているかを確認する。

システムオーディオコントロール機能を使っているときに、本機とテレビの両方から音が出る

→ HDMI機器制御機能がオフ（切）のときや、選んだ機器がHDMI機器制御機能に対応していないときは、本機またはテレビを消音する。

電源オフ連動機能が働かない

→ テレビの電源を切ると、つないだ機器の電源が自動的に切れるように、テレビの設定を変更してください。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

テレビに映像が出ない

→ 本機のHDMI入力端子とHDMI出力端子を逆につないでいないか、確認する。

本機の入力を切り換えたときに、音声の出力方法を本機のスピーカーからテレビのスピーカーに変更したというメッセージが、テレビ画面に表示される

→ HDMI機器制御機能がオフ（切）です。詳しくは、「HDMI端子のない機器のHDMI機器制御機能をオフ（切）にする」（26ページ）をご覧ください。

その他

リモコンが機能しない

→ アクティブサブウーファーとサテライトスピーカーが正しくつながれているか確認する。
→ サテライトスピーカーのリモコン受光部（🅁）に向けて操作する。
→ リモコンとリモコン受光部との間に障害物を置かない。
→ 電池が古い場合は、すべての電池を新しいものに取り替える。
→ リモコンの正しいボタンを押しているか確認する。
→ 本機のリモコンの入力ボタン（TV、BD、DVD、SAT）を押して、操作したい機器を選ぶ（31ページ）。

音声の出力方法をテレビのスピーカーから本機のスピーカーに変更したときに、音量が下がる

→ 音量制限機能が働いています。詳しくは、「音量制限機能を使う」（29ページ）をご覧ください。

これらの処置をしても正常に動作しないときは―リセット

本機のボタンを使って、下記の手順で操作します。

1 I/⏻（電源）ボタンを押して電源を入れる。
2 本機のINPUT SELECTORボタン、VOLUME－ボタン、I/⏻（電源）ボタンを同時に押す。
表示窓に「COLD RESET」と表示され、アンプメニューやサウンドフィールドなどがお買い上げ時の状態に戻ります。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービス窓口へ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは、保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

次のページへつづく

部品の保有期間について

当社では、ステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：HT-CT100
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

本機で対応するデジタル入力フォーマット

本機で対応するデジタル入力フォーマットは以下のとおりです。

フォーマット	対応／非対応
Dolby Digital	○
DTS	○
MPEG2-AAC	○
リニアPCM（2ch）*	○
リニアPCM（5.1ch、7.1ch）*（HDMIのみ）	○
Dolby Digital Plus	×
Dolby True HD	×
DTS-HD	×

* リニアPCMは、48 kHz以下のサンプリング周波数に対応します。

アンプ部

実用最大出力

フロント部　50 W + 50 W、8 Ω、JEITA*

センター部**　50 W/CH、8 Ω、JEITA*

サブウーファー部　100 W/CH、4 Ω、100 Hz、JEITA*

* JEITA（電子情報技術産業協会）による測定値です。

**サウンドフィールドの設定によっては出力がない場合があります。

入力端子（アナログ）

TV　インピーダンス：30 kΩ

入力端子（デジタル）

TV、DVD　光

SAT　同軸、光

HDMI部

コネクター　19ピンHDMI標準コネクター
ビデオ入出力　BD、DVD、SAT：
640 × 480p、60 Hz
720 × 480p、59.94/60 Hz
1440 × 480p、59.94/60 Hz
(pixel sent 2 times)
1280 × 720p、59.94/60 Hz
1920 × 1080i、59.94/60 Hz
1920 × 1080p、59.94/60 Hz
720 × 576p、50 Hz
1440 × 576p、50 Hz
(pixel sent 2 times)
1280 × 720p、50 Hz
1920 × 1080i、50 Hz
1920 × 1080p、50 Hz
1920 × 1080p、24 Hz
オーディオ入力
BD、DVD、SAT：
リニアPCM (最大7.1ch)／Dolby Digital／DTS／AAC

サテライトスピーカー（SS-MCT100）

スピーカーシステム
バスレフ型、防磁型（JEITA***）
スピーカーユニット
40×70 mmコーン型
最大外形寸法　800×68×65 mm
（幅／高さ／奥行き）
質量　2 kg

アクティブサブウーファー（SA-WCT100）

スピーカーシステム
バスレフ型
スピーカーユニット
160 mmコーン型
最大外形寸法　160×500×360 mm
（幅／高さ／奥行き）
質量　10 kg
電源　AC 100V、50/60 Hz
消費電力　電気用品安全法による表示：70 W
アクティブスタンバイ（HDMI機器制御がオン（入）のとき）：1.5 W以上5 W以下
スタンバイ（HDMI機器制御がオフ（切）のとき）：0.3 W以下

*** JEITA（電子情報技術産業協会）

付属品

光デジタルコード（2.5 m）（1）
リモコン（RM-AAU040）（1）
単3乾電池（2）
取扱説明書（本書）（1）
保証書（1）
ソニーご相談窓口のご案内（1）

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

- 待機時消費電力　0.3 W
- プリント配線板にハロゲン系難燃剤を使用していません。
- フルデジタルアンプS-Master搭載によりアンプブロックの電力効率を85%以上に改善。
- キャビネットにハロゲン系難燃剤を使用していません。

用語解説

ドルビーデジタル
ドルビーラボラトリーズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。ドルビーデジタルシネマ音声方式のような高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

ドルビープロロジックII
ドルビープロロジックIIは2チャンネルソースを5チャンネルで全帯域再生する。それを行うのが、ソースにない音や音の色付けを加えることなく、オリジナル録音の空間的特質を引き出す先進的で高音質のマトリックスサラウンドデコーダである。

AAC
BSデジタル放送で標準に定められたデジタル音声方式。「アドバンスド・オーディオ・コーディング（Advanced Audio Coding）」の略で、高い圧縮率で音楽CD並みの音質を実現する。

DTS
DTS社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

HDMI（High-Definition Multimedia Interface）
パソコン用ディスプレイなどで使用されているDVI（Digital Visual Interface）規格を拡張した次世代テレビ向けのデジタルインターフェース規格。映像と音声を1つのケーブルで、信号がデジタルのまま、劣化することなく伝送できる。デジタル画像信号の暗号化記述を使用した著作権保護技術であるHDCPにも対応している。

PCM
アナログ音声をデジタル音声に変換する方式。Pulse Code Modulation（パルス・コード・モジュレーション）の略で、手軽にデジタル音声を楽しむことができる。

S-Force PRO Front Surround
ソニーがこれまで蓄積してきた膨大な音響データを解析し、独自のDSP技術を加えて開発したフロントサラウンドの技術。音像の距離感、空間性をより忠実に再現することが可能となり、後方にスピーカーを置くことなく、前方のスピーカーだけで広がりのあるサラウンドを楽しむことができる。

S-Master
ソニーが独自に開発したデジタルアンプ技術。従来のアナログアンプに比べ、原理的にゼロクロス歪みが発生しない点をはじめ、高効率で発熱が少ないため、小型化が容易であるなど、数々の特長を備えている。

x.v.Color
動画色空間「xvYCC」国際規格に対応し、従来より広い色域を再現でき、花の色や複雑に変化する美しい海の色など、自然界の色を鮮やかに再現する。

索引

あ行

さ行

た行

は行

ら行

A-Z

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

http://www.sony.co.jp/support

使い方相談窓口	**修理相談窓口**
フリーダイヤル ‥‥‥‥‥0120-333-020	フリーダイヤル ‥‥‥‥‥‥0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話 ‥‥‥‥‥0466-31-2511	携帯電話・PHS・一部のIP電話 ‥‥‥‥‥‥0466-31-2531 ※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX（共通） 0120-333-389

上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に
「306」+「#」
を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Sony Corporation Printed in China

* 3 2 8 9 6 3 9 0 1 * (2)